

一都市国家ローマが地中海の支配者に



1つの都市国家がイタリア半島を統一。のちに地中海世界の覇者となる共和政ローマが誕生。

共和政を導入したローマ、イタリア半島を統一

狼に育てられた双子の兄弟ロムルスとレムスが建国したという伝説をもつ古代ローマ。前6世紀末、ラテン人の都市国家ローマが支配者のエトルリア人の王を追放し、共和政を開始した。

共和政は、2名の執政官（コンスル）と貴族によって組織された元老院によって指導されたが、前5世紀に入ると、貴族と平民の対立が激化し、平民の権利を守る護民官の設置、平民だけの民会の開催、さらに貴族による法の独占を打破する十二表法が制定された。また前4〜前3世紀には、公職の平民への開放（リキニウス・セクスティウス法）や、平民会の議決を国法と認める（ホルテンシウス法）など、平民の権利が拡張され、裕福な平民が新貴族となり、従来の貴族とともに新しい支配層を形成するようになった。

ローマは対外的には、前4世紀以降、近隣の都市や諸民族と戦い、領土拡大を続けていた。前3世紀前半、南部のタレントウムを占領し、イタリア半島を統一した。このときローマが行った他都市の支配は、都市ごとに格差をつけた処遇をほどこす分割統治といわれるもので、こうした政策がのちのローマ帝国による支配の原型となった。

カルタゴとのポエニ戦争で勝利 ついに地中海の覇者へ

さらに、ローマは西地中海の制海権を求めて、北アフリカのカルタゴと3回にわたるポエニ戦争を起こした。第1回の戦争（前264〜前241年）に勝利し、シチリア島とサルデーニャ島などを獲得。第2回（前218〜前201年）では象の軍隊を率いて北から進攻してきた敵將ハニバルに苦戦するが、ザマの戦いに勝利し、イベリア半島南部などを奪い属州とした。そして、第3回（前149〜前146年）ついにカルタゴを滅亡させた。同年にマケドニア、その後もシリア、ガリア、エジプトと征服し、「地中海世界」の覇者となった。

カルタゴの名将 ハニバル

その戦略の上手さ、用兵の巧みさで、古代史上に名高い名將ハニバル。第2回ポエニ戦争、別名ハニバル戦争で雪のアルプスを越えて北イタリアへ侵入し、ローマ軍を次々と破って、一時は首都ローマへも迫った。最も偉大な將軍は誰かと聞かれ、「第1にアレクサンドロス大王、第2にエペイロスのピュロス、そして第3に自分だ」と答えたという。

共和政ローマの拡大

